

～ 最期まで笑顔で過ごせる“健幸”なシマづくり ～

認知症になっても大丈夫！と言えるまちづくり

■認知症とは？

年齢を重ねると、誰もが忘れっぽくなったり、なかなかものを覚えにくくなったりするものです。

認知症とは、その進行が通常の老化より早く、日常生活に支障を感じるようになった状態をいいます。

85歳以上では3人に1人が認知症の可能性があるとされます。



■周りのサポートがあれば生活が続けられます。

たとえば・・・

○ゴミの日を忘れる→近所の方がゴミの日の朝に声をかけて教えてくれる。

○小銭を数えにくくなる→お店の人が代わりに小銭を数えて支払できるようにする。

○料理の段取りができなくなる→段取りを少し声かけすることで、野菜を切るなど料理の作業は上手にできます。など・・・

周りの人のちょっとした手助けがあれば、本人が困ることなくこれまで通りの生活を続けることができます。

■得意なこと、上手なことを活かして楽しく暮らす！

認知症という病気になっても、三味線を上手にひけたり、唄や踊りが好きな人、人をもてなす事が得意な人など、できることはたくさんあります。家族や知人とともに、にこにこ、笑顔で、好きなことができる幸せな暮らしができれば、「**認知症になっても大丈夫！**」



■みんなが「認知症サポーター」！

みんなが、認知症を理解し、困りごとがあるときには、さりげないサポートができる。

そんな地域は、認知症の方にも、そうでない方にもやさしく、暮らしやすいまちですね。

◆「在宅ケア」という選択⑤ ～認知症支援～ ◆

【 認知症初期集中支援チーム 】

徳之島3町では、各町の地域包括支援センターを窓口として、専門職が認知症の相談支援を行う「認知症初期集中支援チーム」を設置しています。

＜初期集中支援チームの活動＞

■認知症の疑いや、困りごと、医療や介護の相談などについて各町のスタッフがご相談に応じ、自宅に伺いご本人の状況をみながら支援をしていきます。

■認知症の方の症状や生活状況に応じて、医療や介護が適切に受けられるように支援します。

■島外の認知症専門医に定期的に来島していただき、ご本人・ご家族に必要な支援体制を認知症サポート医や医療介護の関係者とともに検討します。



【 島内の認知症サポート医 】

宮上病院	宮上 寛之 先生
徳之島診療所	徳田 潔 先生
徳洲会病院	水田 博之 先生
	友野 範夫 先生

台風シーズン到来！日ごろの備えが大事です！！

◆備蓄や持ち出し品等の確認

- 水・食料品
- カセットコンロ
- 電灯・乾電池・ろうそく・マッチ
- 内服薬、お薬手帳
- 救急用品

◆避難所や避難経路を確認しましょう

- 避難場所
- 避難場所までの移動方法
- 家族等との連絡方法
- 家族等との待ち合わせ場所

◆ご近所の助け合いが大事！

- 避難訓練などがあれば参加しましょう
- 避難時に声かけや手助けが必要な方は、「避難行動要支援者登録」を！
- 地域の中で、要支援者の方を日ごろから確認しておく



【災害時避難行動要支援者登録】

独居、高齢者夫婦世帯、介助を要する方などの情報を登録し、地区の自主防災組織や関係機関に情報提供しています。

【救急あんしんキット】

緊急時の連絡先・かかりつけ医、持病や内服薬等の情報を記載し、家庭内に設置しておくことで、救急時に役立てる「あんしんキット」を無料配布しています。

名簿登録&救急キット申込みは介護福祉課へ！ 様式は下記HPにもあります。
徳之島町公式HP ホーム> くらし> 健康・福祉・子育て> 高齢者福祉